

七小校長室便り

開校51年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.4 令和5年(2023年)7月19日

明日は、一学期の始業式です。思い出深い夏休みを！

7月20日(木)の明日は、令和5年度の1学期の終業式となります。コロナ禍の制限の緩和とともに、社会的にも様々な活動が活発となり、2類から5類への変更によって、マスクの着用が個人の判断になったことやコロナ禍で実施できなかった行事等が大きな期待の中、開催されることになる等、大きく社会生活が変化しています。

各学校においても、学校行事や教育活動において改めて検討したり、実施の可否や内容においても考え直したりする等、再構築していることも多く、よりよい活動になるように模索しながら、学校運営を行っています。

本校においても、全校児童が体育館に一堂に会する全校朝会や対面形式での離任式の実施、分散や人数制限のない2回の学校公開の実施、制限が緩和された公共交通機関を使用した校外学習等、多くの活動で、子供たちにとってよりよい活動となるように取組を実施しているところです。また、この一学期後半の6月から7月にかけては、自然災害や熱中症等、私たちの身の回りの自然の変化にも対応していく必要が出てきているところです。

お陰様で、一学期における本校の子供たちは、学校生活を元気に過ごし、それぞれ自分の目標に向けて取り組む姿が多くありました。また、挨拶に頑張っている子供も増えてきている様子もあり、優しい関わりの姿も多く見受けられました。

明日は、この一学期を締めくくる終業式の日となります。これからも、本校の子供たちが楽しく、元気に学校生活を送れるよう、二学期もよりよい学校運営を目指してまいります。保護者や地域の皆様には、これからも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、引き続きよろしく願いいたします。この一学期ありがとうございました。思い出深い夏休みをお過ごしください。



ご退職者の紹介

ここで、ご退職の方を紹介いたします。今年度、本校に新しく支援員として入られました職員ですが、ご家庭の事情により、ご退職となりました。

これまでのご尽力に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。



学校とPTA・地域との連携を深めつつ

今年度の教育活動もいよいよ一学期を終えるところですが、本校においては、保護者の代表であるPTAの皆様と見守り会をはじめとした地域の皆様との連携は、切っても切り離すことができない、とても大切な連携の1つであり、これからも深めていきたいと思っております。

PTAにおいては、昨年度の運営委員会より校長及び副校長が出席をさせていただき、協働的な教育活動になるようにと、連携を密にしていきました。

特に昨年度は、本校の開校50周年という佳節の年ということもあり、より緊密な連携が必要となりました。開校記念式典に向けた様々な取組においても、PTAのご協力の下に、子供たちへの記念品や塗り絵のリーフレットの贈呈、式典当日のお手伝いのご協力等、コロナ禍のとても難しい状況の中で、PTAの皆様の多大なるご尽力をいただきながら、本校の大切な年を大成功で終えられたことは、今も感謝の思いでいっぱいです。

今年度においても、前任のPTA会長から、新PTA会長をはじめとする新体制となり、新しいPTAの活動を模索しながら、学校と協働した運営となるよう努めていただいています。開校60年を目指す1年目である今年度も、よりよい教育活動としていくためには、PTAの皆様との協働した取組は、欠かすことができません。この先の本校のよりよい姿を共有し相談をしながら、協働した連携を進めてまいります。どうぞ、引き続き、よろしく願いいたします。

七小見守り会の皆様におかれましても、本校の児童の安全と安心の存在となっていただいているから、今年度で9年目となりました。いよいよ来年度は、10周年の節目の年となります。本校の子供たちにとっては、心を耕す大切な地域の人としての関わりがあり、朝の挨拶や登校支援や安全支援により、これまでの9年において、子供たちの挨拶の定着や思いやりの醸成、安心を伴う見守りによる無事故を図っていただきました。



本校の周辺の交通事情は、皆様もご存じの通り、決して安全とはいえないのが現状にあります。学校の正門前の道は狭く、交通量も決して少なくはありません。また、車の抜け道になっているところも多く、十分に気を付けていても、事故が起こりやすい状況があります。しかし、私が着任してからのこの3年においても、重大事故は起こっておらず、子供たちの安全を、暑い日も寒い日も、雨の日も風の強い日も、今年のこの猛暑の中でも、毎日の登校を見守っていただいております。

本校の子供たちのことを大切に思い、安心と安全を提供いただいていることに、本校の教職員を代表しまして、心からの御礼を申し上げます。誠に、ありがとうございます。

本校は、これからもPTAや地域の皆様、健全育成に関わる様々な機関の方々、本校の教育活動を支えていただいている全ての皆様との連携を大切に、開校60周年を目指して、「協働的連携」をこれからも大切にしていきたいと思います。どうぞ、これからの本校の教育活動においても、引き続きのご理解とご協力を、心からお願い申し上げます。

校内研究 心の教育と道徳教育の要・「特別の教科 道徳」について

今年度は、国立市教育委員会の研究奨励校となって2年目であり、来年の2月9日（金）には、研究発表会を行います。

本校の児童の長所である「自己肯定感」の高さや上学年から下学年への関わりにおけるやさしさ、地域の皆様に育てていただいている挨拶の励行等を活かした「心の教育」を推進するために、道徳教育の要である「特別の教科 道徳」の授業を改善し、より子供たちの心を耕し、生きる力に必要な心の強さの1つである「やさしく」を育成していくことに努めているところです。

一学期は、研究授業を2回行いました。

1回目は、1年2組の櫻木主幹教諭の学級で、「公正・公平」の授業を、2回目は、3年1組の野間主任教諭の学級で、同じく「公正・公平」の授業を行いました。

道徳の授業には、それぞれの教科書に載っている教材に、学習する価値の内容項目が決められています。内容項目には、A・B・C・Dの4つの大きな視点があり、以下のようになっています。

A「主として自分自身のこと」

B「主として人との関わりのこと」

C「主として社会や集団との関わりのこと」 D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりのこと」

今回の内容項目は、「公正・公平」で、Bの「人との関わりのこと」を学ぶ内容です。

子供たちは、教科書にある教材を基に自分の心に問いかけながら、学級の友達とペアやグループで話し合い、最終的には、議論して、それぞれの内容項目に迫ることができるようにしていくことを目指しています。私たち教員としては、どのように問いかけること（「発問」）で、子供たちの心が揺さぶれるのかを研究し、授業の改善を行っています。

心を揺さぶり耕すには、多くの経験や体験が大切です。道徳の授業は、ある意味で、疑似的経験や体験ができる教科であり、教材を通して、経験値や体験値を高め、自分の行動や気持ちを適切に表現できるようになる心の土台作りといえると思います。年間35時間以上の道徳の授業をしっかりと行って、真剣に、そして、楽しく学べる、心の栄養としての道徳の授業が展開できるように、学び続けてまいりたいと思います。

【校長のつぶやき】 先日のある日、突然、懐かしい方から連絡を頂きました。

もう、20年近くお会いしておらず、本当にびっくりしましたが、お話をした瞬間から、ご一緒させていただいた当時のように話をしている自分がいて、一瞬にして、昔の自分に戻っておりました。その方とは、友人の結婚式でお会いしたのが最後でしたが、ずっと私のことを覚えていただいていたようで感激いたしました。私が指揮者をしていただいていた合唱団を通じての出会いですが、その合唱団のファンとなってくださったことがご縁となり、その方が芸能関係の方で、司会やレポーターなどをされていたこともあって、以後、合唱団が出演する機会にご一緒することもあり、当時は、よくお会いしたことを思い出しました。テレビ等でお元気な姿を拝見する度に、懐かしく思い出し、ご活躍を願っていました。

その方から、それも職場である学校に連絡がきた訳ですから、私としては、驚きが先で、お話をお聞きしていても内容がよく分からなかった程でした。お知らせいただいた内容については、今はお伝えできませんが、いずれ時が来たら、皆様に必ずお伝えいたします。

これまで、多くの人との繋がりがあり、たくさんの経験や体験を積みさせていただきました。人生において、こんなことは二度とないと思えることもたくさんありました。それは良いことも、そうでないことも含めてとなりますが、人との出会いは、正に人生を彩ってくれるものなのだと改めて実感した出来事でした。皆様にお伝えするのが楽しみです。